

いつも当研究会へのご支援・ご協力頂き誠にありがとうございます。

今回のNewsLetterは亀田総合病院の疼痛・緩和ケア科 蔵本浩一医師のコラムを掲載致します。

蔵本医師が合同勉強会で感じた事を基に、すっきりしないもやもやした心の中について語られています。

ご一読ください！

● コラム

『スッキリしない話』

亀田の緩和ケアチームには、チャプレン^(※1)がいる。うちのチャプレンの話は、時に難解でスッキリしない。

先日行われた、在宅診療科と緩和ケアチームの合同勉強会^(※2)のこと。その日のテーマは「スピリチュアルペイン」。まず医師側から「これはスピリチュアルペインなのか？」と感じた経験を共有してもらい、それを基に、チャプレンが語り、それを聞いてまた誰かが語るという、いわゆる対話形式で進んでいった。

会の終盤、ある研修医がこんな感想と質問を述べた。

「これまで、「スピリチュアルケアって何ですか？」と質問を受けた時、村田理論^(※3)は言語化しやすくてわかりやすいと思っていた。でも一方で「枠組み」化してしまうことに違和感を覚えた。今日の話聞いて、少し腹落ちするところはあったが、まだスッキリしない。「枠組み」化することで、そこからこぼれ落ちるものをどう扱えばいいのかわからない。また「枠組み」化しない場合、どうやってカルテやdiscussionで共有すればよいかかわからない。実際、チャプレンはどうやっているのか？」

これに対してチャプレンはこう答えた。

「チャプレンはカルテではスピリチュアルケアを具体的に表現することは放棄しています。」

放棄した、ということは、つまり「書いてない」ということである。そしてさらにこう続けた。

「チャプレンの関わりは、主観と主観のやりとりなので、客観的な事実を書くことが主となるカルテ記載には向いていないんです。適切に表そうとすると小説のような文章になってしまうんですね」

なるほどである。それでいいのか？という問題はさておき、できないものはできない、ということである。

そのとき、ふとこんなことが頭をよぎった。

この「枠組みするとこぼれ落ちる」問題や、「主観と主観の記載はカルテ記載には向かない」問題は、いわゆるACPでも同じじゃないか？と。

ACPも（医療者が中心となって考えた）一種の「枠組み」である^(※4)。自分にとって大切なことを考え、それを家族に伝えて話し合い、主治医とも共有して、可能ならば記録に残して、気持ちが変わったら振り出しに戻ってそれを繰り返す、という枠組みだ。そこでは主観と主観のやりとりがなされている。でも、そもそも私たちの主観は、いろいろなものに容易に修飾される。例えばそれが話される場や、そこにいる人々の関係性、その日の体調、もしかすると天気にも左右されるかもしれない。もし仮に「記録するので録画しますね」なんてことになったら、本心なんてほとんど話せなくなるかもしれない。

▶ 続き

枠組みに当てはめることで、こぼれ落ちていくもの・・・端折られてしまうもの・・・。

「もしバナゲーム」(※5)の4人プレイ中にも、実は同じようなことが起きている。最初は自分でもわかっていなかった大切なことが、カードを取捨選択する内にだんだんとわかってきて、言語化できなかったことが徐々に言語化できるようになる。でもそれで言語化できたことって、100%なんだろうか。よく「思い出は美化される」というが、言語化の過程で、全部は言いにくくてちょっと端折ってしまうこと、少なくとも自分はそれをよくやっている。

みんながそうだとは言えないが、人には言葉にし辛いことがある。だから口にできたことを記録するだけでは足りない可能性がある。そして無論、言葉に詰まること＝沈黙は言語ではない。でもそこにも意味がある。チャプレンが関わりの中で、あえて枠組みを作らないことにも意味がある。

ジョアン・ハリファックスはその著書(※6)の中で、Not knowing(わかったつもりにならないこと)と説いている。いくら言語化能力の高い人であっても100%は言語化できないかもしれないし、聴く側も相手が話したことを100%は理解できないかもしれない。

少なくとも、今のACPの過程を通じて、枠組み化すること＝単純化することで、こぼれ落ちていくものがある。それを意識することも、援助職の心得として大切なことではないか・・・

.....

そんなことを考えていたら、いつの間にか勉強会が終わっていた。なので、最後のまとめに何を言っていたのかわからない。結果、「スッキリしない」終わり方ではあったが、「チャプレンのスピリチュアルケアに対する構えこそが、ACPにも必要ではないだろうか」、そんなことをもやもやと考えた勉強会だった。

(おわり)

※1:スピリチュアルケア～「関係性」にて患者を支える～(瀬良信勝)<http://www.kameda.com/pr/palliativecare/outline-3.html>

※2:亀田総合病院在宅診療部Facebookページ<https://www.facebook.com/kameda.homecare/posts/225206843149652>

※3:村田久行, 終末期がん患者のスピリチュアルペインとそのケア, 日本ペインクリニック学会, 2011, vol.18, No1

※4: R Sean Morrison, J Palliat Med, 2020 Jul;23(7):878-879.

※5:もしバナゲーム, <https://www.i-acp.org/game.html>

※6:ジョアン・ハリファックス, 死にゆく人と共にあること マインドフルネスによる終末期ケア, 2015, 春秋社



執筆者 蔵本浩一

亀田総合病院 疼痛・緩和ケア科 医師

/一般社団法人 i ACP 代表理事

URL : <https://www.i-acp.org>

ようやくもしバナゲームのソリティア(オンライン版)が出来上がってきました
またこの2月からはオンラインで、もしバナマイスタープログラムも再開となります



募集

NEWSLETTER

NEWSLETTERに掲載する記事を募集しております。
地域のACPの活動についてや掲載してほしい記事などございましたら、事務局までご連絡ください。

日本アドバンス・ケア・プランニング研究会事務局

mail: acp.study.group@gmail.com

電話: 0562-48-8456

● お知らせ

北海道在宅医療推進支援センター事業 主催 「人生会議・ACP 普及に向けた医療従事者向け研修会」のご案内

日本アドバンス・ケア・プランニング研究会の三浦久幸と西川満則が講師として参加致します。
ご興味がありましたら、是非ご参加ください！

URL : <https://www.hmsw.info/wp-content/uploads/2022/01/2aebd4b99aee5efa2577e0d2e309.pdf>

●第1回ACP（人生会議）の基本

2022年2月6日（日）15：00～16：30

（WEB開催・オンデマンド配信）

講師 一般社団法人日本アドバンス・ケア・プランニング研究会

代表理事 三浦 久幸 先生

（国立長寿医療研究センター在宅医療・地域医療連携推進部長）

●第2回ACP（人生会議）の取り組み事例から学ぶ

2022年2月23日（水・祝）15：00～16：30

（WEB開催・オンデマンド配信）

講師 一般社団法人日本アドバンス・ケア・プランニング研究会

理事 西川 満則 先生

（国立長寿医療研究センター緩和ケア診療部）



※北海道在宅医療推進支援センター事業とは？

『在宅医療に係る地域の現状・課題を分析し、地域の課題に対する相談・助言、各種在宅医療に関する研修会を行い、道内の在宅医療の提供体制整備を推進すること』を目的としている北海道の事業です。

URL :

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/cis/zaitaku/zaitakushi/encenterhp.html>



一般社団法人 日本アドバンス・ケア・プランニング研究会 事務局

〒474-8511 愛知県大府市森岡町7丁目430番地
国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
在宅医療・地域医療連携推進部内

☎0562-48-8456

●E-mail : acp.study.group@gmail.com

Facebook



HP



令和3年度 **人生会議 | ACP | 普及に向けた**
医療従事者向け研修 対象 | 医療・介護従事者 **参加無料**

第1回・第2回

Zoom ウェビナー |
・当日のリアルタイム視聴
・後日のオンデマンド配信

登録締切 | 各回の1週間前を目途
詳しくは裏面へ

第3回

Zoom ミーティング |
・会場 | 後日視察なし

定員 | ZOOM : 150名
会場 : 20名

申込締切 | 3/10(木)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、会場による研修を中止とする場合がございます。

お申し込み

参加登録による受付
各回の日付枠内にある
URL / QR コードから
申込フォームへ
詳しくは裏面へ

2022年 **第1回** **2月6日(日)** **15:00～16:30** **WEB開催**

☑ <https://00m.in/1a>
☑ オンデマンド配信 | 2/7～3/25

Theme **ACP (人生会議) の基本**

講師 | 一般社団法人日本アドバンス・ケア・プランニング研究会
(国立長寿医療研究センター在宅医療・地域医療連携推進部長)
代表理事 **三浦 久幸 氏**

産長 | 一般社団法人日本アドバンス・ケア・プランニング研究会
(社会医療法人西岡病院)
理事 **五十嵐 知文 氏**

主な対象者 | ACP未経験者
 ACPの基本を学びたい医療・介護従事者

2022年 **第2回** **2月23日(水・祝)** **15:00～16:30** **WEB開催**

☑ <https://00m.in/2a>
☑ オンデマンド配信 | 2/24～3/25

Theme **ACP (人生会議) の取組事例から学ぶ**

講師 | 一般社団法人日本アドバンス・ケア・プランニング研究会
(国立長寿医療研究センター緩和ケア診療部)
理事 **西川 満則 氏**

産長 | 一般社団法人北海道医療ソーシャルワーカー協会
(社会医療法人西岡病院)
副会長 **岡村 紀宏 氏**

事例紹介 01 **在宅の取組事例** | 事例紹介 02 **介護施設の取組事例**

医療法人財団 高齢者学術総合センター 特別養護老人ホームしゃくくが荘
田上 幸輔 氏 | 施設長 **山本 進 氏**

主な対象者 | ACP 導入希望者 WEB 会場
 ACP 開始間もない医療・介護従事者

2022年 **第3回** **3月19日(土)** **13:30～15:30** **ハイブリット開催**

☑ WEB | <https://00m.in/3aweb>
☑ 会場 | <https://00m.in/3ahall>

☑ 会場 | TKP 赤レンガ前：JR 札幌駅～徒歩5分

Theme **コミュニケーションのスキルアップ**

講師 | 一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会
代表理事 **小澤 竹俊 氏**
業務執行理事 **千田 恵子 氏**

講演とグループワーク

主な対象者 | ACP実践者 コミュニケーションスキルの向上
を希望する医療・介護従事者

医療従事者が、人生の最終段階に向かう患者の意志や自己決定に基づく適切な医療その他の支援等の提供を行うことができるよう、ACP の基本を理解し、現場への導入方法を学習します。

そのため、医療従事者が、患者とのコミュニケーションスキルを向上させ、また、患者を取り巻くチーム形成をするための考え方や関係機関等の連携（チームビルディング）の基礎を学びます。